

宇電懇ニュース

宇宙電波懇談会事務局発行
(名古屋大学空電研究所)

目次

- | |
|--|
| I. 昭和62年度宇電懇総会開催
(是非出席下さい) |
| II. NRO共同利用委員会報告 |
| III. 電波ヘリオグラフ |
| IV. 電波天文研究施設WG報告 |
| V. 事務局からのお知らせとお願い
(移動がありましたら至急連絡を) |
| 付録(別冊)・天文学の国立大学共同
利用機関について(構想素案)
・NRO研究員内規 |

I. 昭和62年度宇電懇総会開催

日時: 昭和62年5月12日12時より(天文学会の午前の講演終了直後)

場所: 京大会館1階講演室(A会場)

議題 1. 昭和61年度の事業報告

2. 昭和62年度の事業計画(宇電懇シンポジウム)

(各自シンポジウムのテーマを考えておいて下さい)

3. 天文学の国立大学共同利用機関に於ける電波天文研究施設について

4. その他

II. NRO共同利用委員会(昭和62年4月4日)報告(田原)

4月4日共同利用委員会が開催された。主な議題は昭和61年度事業報告、62年度事業計画及び63年度概算要求、天文台改組であったが、ここでは共同利用にかかわるものを中心に紹介する。

(1) NRO62年度事業計画

A. 45m電波望遠鏡共同利用

共同利用の期間を11月から6月とする。プロポーザル募集に関する日程は未定であるが前期は昨年に比べ1月程度早まりそうである。その場合前期(11~2月)分のプロポーザル締切りは6月末、採否決定通知は9月初となる。

今年度はアンテナ関係の改修は行わないので、この時期に

①受信機等の開発テスト

②夏期にどの程度の波長まで有効な観測が可能かの試験観測

③今まであまり進んでいないNROプロジェクトを中心とした観測

(なおこのプロジェクトは追って発表されるので、関心の

ある方は連絡をとれば、共同研究が可能な場合がある。)

を行う予定になっている。

B. 干渉計共同利用

前期共同利用に提供した22GHz連続波観測は順調に実施され、当初の目的は達せられそうである。今期は40GHz帯受信機をのせるなどミリ波の立ち上げを最優先して進める予定である。

C. 装置関係

①45m鏡関係

・マスターコリメータの精度・信頼性の向上のため改修:

62年度製作、63年度組み込み調整

・ビーム伝送系を4焦点増設: 62年度設計、63年度着工

・主反射鏡パネルの一部が痛んできたので、63年度改修を目指し対策を検討

・受信機: SIS(40GHz, 100GHz)の観測実用化、230GHz, Bell研SIS立上げ、HEMT受信機による高周波数帯整備など。

②干渉計

・アンテナビーム伝送系、固定室などの改修

・受信機観測装置関係: 22GHz, 43GHz用HEMT受信機、FX(320MHz化)

・ミリ波観測(40GHz, 115GHz)におけるスペクトル、連続波の本格観測テスト

③受信機開発

・SIS受信機の実用化

・SIS用4K, HEMT用20K冷凍機製作

④計算機

・新COSMOS、AIPSバージョンアップ等ソフト開発

・遠隔地リダクション試験

(2) 研究会、ワークショップ(WS)

今年度研究会・WSには、ユーザズミーティングの他に下記の申込み(氏名は世話人)があった。

①45m鏡による太陽ミリ波観測	柴崎	12名		
②JNLTに向けての赤外線天文学	佐藤(修)	20名	7月	2日間
③電波によるパルサー観測	平林	14名	夏	2日間
④星間分子スペクトル線探索	鈴木	30名	夏	3日間
⑤ビーミングモデルの検討	井上	10名	7月、秋の2回	
⑥プロトスター研究会	長谷川	30名		3日間

今年度支出できる旅費の枠は昨年実績より厳しいとし、採否の議論がなされた。

①③④については実施することです承された。⑤⑥については科研費の可能性を

積極的に検討して欲しいとの条件を付し了承された。②については今回見送ることになった。

(3) 昭和63年度概算要求について

概算要求については、従来のNROからと改組にからむものの2本立とし、以下の要求(主なもの)をすることになった。

- ①従来のNROから 干渉計共同利用経費
- ②改組にからむもの 電波天文学研究施設の設置
電波ヘリオグラフの設置
太陽電波の共同利用に伴う経費

(4) 共同利用委員及び各専門委員の交替について

共同利用委員及び各専門委員は任期途中であるが、転出等もあり下記のように委員の交替があった。

① 共同利用委員

赤羽委員が富山大理学部、内田委員が東大理学部それぞれ転出されるのに伴って、石黒正人氏、日米井栄二郎氏が台内委員として選ばれた。

② 共同利用専門委員会

今期の共同利用専門委員は、森本委員が観測所長ということと、石黒委員も2年目に入ったことで、森本委員は退くことになった。

③ プログラム専門委員会について

藤本委員の代わりに奥田治之氏が新しく委員となった。

(5) 研究員

NRO研究員の内規が別項のように新しくなった。定員が4名以内になったことと川辺氏がNRO助手に採用されたため3名の空席が生じた。これにともなって公募が行われ、選考の結果山下(京大)、亀谷(東北大)に決定した。研究員としてすでに半田氏が採用されているが、残り1名のポストについては今年度は空席とすることになった。委員会では、できるだけ待遇の向上をはかるように要望があった。

(6) 天文台改組の問題

古在天文台長から「天文学の国立大学共同利用機関について(構想素案)」、海部委員から電波天文学研究施設のイメージについて報告があった。議論は主に、共同利用運営の在り方についてなされた。本委員会の議論をふまえさらに共同利用専門委員会で議論を深めることになった。専門委員会の開催は5月1日とし、委員以外に赤羽氏、鰐目氏が加わることが了承された。

Ⅲ. 電波ヘリオグラフ

1. 63年度概算要求書作成

3月16日に初版ができあがり、東京天文台事務部と打ち合せを行いました。その後改訂を重ね、最終版を4月23日に提出しました。

2. 「URSI-J分科電波ヘリオグラフWG」が3月27日に東京天文台において11名の参加により開催されました。URSI-J分科、太陽電波グルー

ブからのあいさつのあと、ヘリオグラフ装置の説明があり、技術的な検討がなされ、最後にヘリオグラフを用いた変動電波天体観測の提案がありました。

IV. 電波天文学研究施設検討WG報告

宇電懇ニュースNO.73の第4回宇電懇運営委員会報告の中でお知らせしたように、天文台改組に伴う電波天文関係の問題をこのWGで議論しています。メンバーは、森本、海部、石黒、東条、甲斐、中島、小杉、塩見、鰐目、柴崎です。今までに5回(2/20,3/3,3/11,3/27,4/20)開催され、電波天文学研究施設の組織(研究部門、客員部門、各望遠鏡(45m、干渉計、ヘリオグラフ)のオペレーションセンター、太陽電波データセンター等)、建物の増築要求、技術部及び技術職員問題、豊川の移行措置等について議論を行ってきました。4月より発足した改組準備調査室(平山室長、池内幹事、電波関係は海部、鰐目)において、このWGが正式に認められ、調査室の下部組織となりました。なお正式メンバーは、鰐目(主査)、海部、森本、甲斐の4名だけです。今後WGの議論、結論は調査室で取り上げられることとなります。WGでの議論の内容については今後も宇電懇ニュースを通じて皆様にお知らせする予定です。

V. 事務局からのお知らせとお願い

新入会員： 井田順一 岡谷電機埼玉製作所 埼玉県行田市齊条1003

会員の移動： 甲藤隆弘、小池国正、塩見正

電波研究所鹿島支所 → 電波研究所(小金井)

鷹野敏明 野辺山宇宙電波観測所 → 空電研究所

年度の切り替わりに伴い、多くの移動があると思いますので、移動があり次第事務局まで連絡をお願いします。そのままにしておきますと配布物が届かなくなりますので御注意下さい。

宇電懇ニュース原稿募集：

宇電懇会員に知らせたいニュース、連絡事項、意見、近況、海外情報などを事務局までお寄せください。研究会等の案内や報告、それに各種ビジネスミーティングの報告も歓迎いたします。天文学の国立大学共同利用機関、電波天文学研究施設等についての意見をどしどしお寄せ下さい。

宇宙電波懇談会事務局	〒442	豊川市穂ノ原3-13
代表 鰐目信三		名古屋大学空電研究所
秘書 柴崎清登	TEL.	05338-6-3154(代)
		05338-4-5711(FAX)
郵便振替口座 名古屋 4-42399		宇電懇事務局

野辺山宇宙電波観測所研究員制度内規

1. 目 的 本制度は、修士課程修了程度以上の研究者に、野辺山宇宙電波観測所において観測・研究・開発に従事する機会をあたえて有能な研究者を養成し、あわせて宇宙電波観測所における研究の振興をはかるためのものである。
2. 待 遇 研究員は、指導教官の指導の下に研究を行うとともに宇宙電波観測所の研究活動に参加する。なお、研究員在任中は教務補佐員として雇用され給与が支払われる。
3. 人 員 4名以内とする。
4. 選 考 野辺山宇宙電波観測所共同利用委員会（以下委員会と呼ぶ）において選考する。
5. 任 期 2年以内、但し、特別の事情のある場合委員会の議を経て、1年に限り延長を可とする。
6. 研究場所 原則として、野辺山宇宙電波観測所とする。募集分野等については、委員会でその都度決定する。
7. 応募資格 大学院修士課程修了または、それと同等以上の者で当研究員に専任する者。
8. 提出書類 履歴書、研究計画書、論文リストおよび主要論文の別刷、希望の研究場所が野辺山でない場合は、その理由書。
9. 募 集 募集は公募とする。

野辺山宇宙電波観測所共同利用委員会

宇電懇ニュース(No.74)付録

(これは構想素案であり、今後改組準備調査委員会・調査室等で議論する際の基本的資料となります。改組準備調査委員会・調査室では昭和63年度の概算要求に向けての議論・作業を行っています。)

天文学の国立大学共同利用機関の設立について

東京大学東京天文台

昭和62年3月30日